

一般国道28号(本州四国連絡道路(神戸・鳴門ルート))等
に関する維持、修繕その他の管理の報告書
(平成22事業年度)

平成23年7月

本州四国連絡高速道路株式会社

目 次

第1章 基本的方針・管理の水準等

1. 基本的方針
2. 管理の水準
3. 対象路線

第2章 平成22年度 高速道路管理業務の実施概要

第3章 高速道路管理業務の成果（アウトカム指標）

1. アウトカム指標一覧
2. 各指標の取り組みについて

第4章 計画管理費の計画と実績の対比

1. 維持修繕費
2. 管理業務費

第5章 平成23年度以降の道路管理について

1. 予防保全による維持管理費

〈参考〉道路資産データ等

【別添】

一般国道28号（本州四国連絡道路（神戸・鳴門ルート））等に関する維持、修繕その他の管理の仕様書

第1章 基本の方針・管理の水準等

1. 基本の方針

本州四国連絡高速道路株式会社は、経営の合理化や技術の高度化を図りながら、お客様に安全・安心・快適にご利用いただけるようサービスの充実に努めるとともに、200年以上の長期にわたり利用される橋をめざし、万全な維持管理に努めることを経営理念に掲げ、これに向かって誇りと自信を持って挑戦する企業をめざしております。

経営理念

Bridge : Communication & Technology

私たちは、本州と四国を結ぶ世界に誇る橋を良好に保つことにより、人と物の交流と地域の連携を推進し、経済の発展と生活の向上に寄与します。

また、これまで培ってきた橋の建設、管理技術を活用して、広く社会に貢献します。

1. お客様に安全・安心・快適に利用していただけるよう、サービスの充実に努めます。
2. 200年以上の長期にわたり利用される橋をめざし、万全な維持管理に努めます。
3. 橋梁技術のフロントランナーとして、技術の継承・高度化を推進します。
4. 瀬戸内の美しい自然を大切にし、環境に配慮します。
5. 公正で効率的な運営により、経営の安定と成長をめざします。

2. 管理の水準

- 当社は、協定第12条に基づき、協定の対象となる本州四国連絡道路（以下「本四道路」という。）をお客様に安全・安心・快適にご利用していただけるよう常時良好な状態に保つため、別添参考資料「維持、修繕その他の管理の仕様書」に基づき維持、修繕その他の管理を実施しております。
- 仕様書に記載している管理水準は、通常行う管理水準を表現したものであり、繁忙期や閑散期、気象条件、路線特性等の現地の状況に即した対応を図るため、現場の判断により適宜・適切に変更して運用することがあります。

3. 対象路線

- 会社が維持、修繕その他の管理を行う対象は下表のとおりです。

路線名	現在供用延長(km)
一般国道28号(神戸淡路鳴門自動車道)	89.0
一般国道30号(瀬戸中央自動車道)	37.3
一般国道317号(西瀬戸自動車道)	46.6
合計	172.9

第2章 平成22年度 高速道路管理業務の実施概要

本四道路の維持、修繕は、適正かつ効率的な事業運営及び予防保全を基本とした管理手法によりライフサイクルコストの低減化を図るとともに長大橋の適切な保全に十分配慮することにより、国民的財産である長大橋群を200年の長期にわたり健全に管理していくことを目標に実施しております。また、海峡部区間は代替路が約100km離れた他の本四道路という特殊性に配慮して管理を実施する必要があります。

具体的には、安全で円滑な道路機能を提供するため、道路清掃、植栽管理等の維持作業、補修等の修繕工事、雪氷対策作業等を適時適切に実施しました。



料金收受にあたっては、迅速正確な收受を行うとともにお客様への接遇マナー向上に努めました。また、本四道路を快適にご利用いただくため、適切な開放車線数の確保に加え、新たにETCレーンの整備を図りました。

交通管理にあたっては、当該道路の特性を踏まえ、障害発生時におけるお客様の安全性を十分確保するとともに、時間損失を極力回避するため、道路の定期又は臨時の巡回及び管制室における常時監視を実施し、道路の状況、走行環境等の情報の収集・把握、事故等の処理及び路上落下物の発見・回収等を行い、安心・安全・快適な交通の確保に努めました。

【平成22年度実施の主な企画割引】

与島PA Uターン割引



対象車種 「普通車」・「軽自動車等」
 実施期間 平成23年3月31日まで毎日
 割引区域 瀬戸中央自動車道のうち与島PAでUターン走行した区間

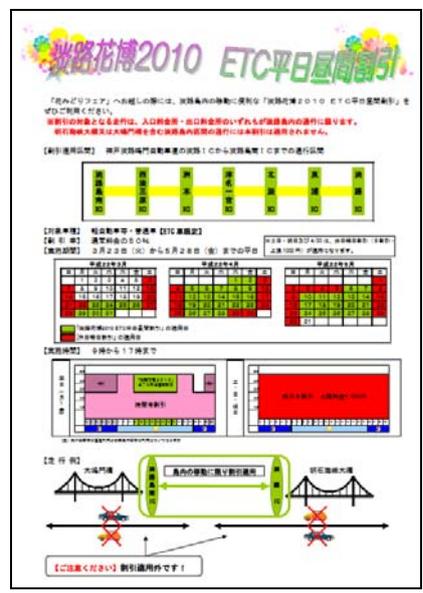
しまなみサイクリングクーポン



販売期間・ご利用期間
 平成22年3月20日(土)
 ～平成23年11月10日(水)

通行区間	通行料	クーポン優待
因島大橋	50円	1枚
生口橋	50円	1枚
多々羅大橋	100円	2枚
大三島橋	50円	1枚
佐方・大島大橋	50円	1枚
東島海峽大橋	200円	4枚

淡路花博 2010 ETC 平日昼間割引



「花みどりフェスタ」へお越しの際は、淡路島内の移動に便利な「淡路花博2010 ETC平日昼間割引」をご利用ください。

【割引適用区間】 瀬戸淡路間自動車道の区間1Cから区間4Cまでの通行区間

【対象車種】 軽自動車等・普通車【ETC専用車】
 【割引率】 通常料金の50%
 【実施期間】 平成22年(2010)から平成23年(2011)までの平日

【通行料】 各橋から1.5倍まで

【走行例】 淡路大橋 → 高島自動車道 → 淡路大橋

【ご注意】 【ご注意ください】 割引適用外です！

第3章 高速道路管理業務の成果（アウトカム指標）

1. アウトカム指標一覧

アウトカム指標	定義	単位	H21年度実績値	H22年度実績値	コメント
路上工事による車線規制時間	道路1km当たりの路上工事(陸上部)に伴う年間の交通規制時間	時間/ km・年	106	94	この数年の間に新たに66kmの路線延長が舗設後10年以上を経過したことに加え交通量の増大により舗装が急速に劣化したため、補修工事を大規模に実施したことから、目標を達成できませんでした。
道路構造物保全率(舗装)	道路利用者が快適に感じる舗装の状態が保持されている道路延長の割合	%	94	96	保全率の低下を踏まえ、平成21年度の2倍を超える規模の補修を実施し、保全率を2%改善させたものの、この数年の間に新たに66kmの路線延長が舗設後10年以上を経過したことに加え交通量の増大により舗装が急速に劣化したため、目標を達成できませんでした。
道路構造物保全率(橋梁)	予防保全が行われている橋梁の延長の割合	%	100	100	点検により橋梁の状況を把握し、必要な予防保全を実施し、良好な状態に保ちました。
長大橋健全度(塗装)	全面塗替直後の評価100に対する現在の塗装状態の割合	%	85	85	劣化予測に基づき、瀬戸大橋の桁の塗替塗装を計画的に実施し所定の健全度を確保しました。
橋脚補強完了率	昭和55年より古い基準等で設計した橋脚のうち、耐震補強が完了している橋脚基数の割合	%	—	—	対象となる橋梁の耐震補強は完了しました。
死傷事故率※	1万台の車両が1万km走行した場合に起きる死傷事故の件数	件/ 億台 ^{キロ}	6.6	6.9	交通安全対策に寄与する高機能舗装を推進したこと、道路緊急ダイヤルの広報活動による路上落下物等の通報の増加が事故防止に寄与し、目標を達成したものの、前年度より0.3ポイント増加しました。
本線渋滞による損失時間	渋滞が発生することによるお客様の損失時間	万台・時 ／年	8.5	4.5	休日終日割引の実施により、割引実施前に比べ大幅な渋滞が予測されたので、その事前情報提供及び繁忙期間の工事抑制により、目標を達成しました。
ETC利用率	ETCの利用可能料金所におけるETC利用車両の占める割合	%	89	90	ETCを活用した企画割引の実施や利便増進事業によるETC割引施策の継続実施等が利用率向上につながり、目標を上回りました。
顧客満足度	道路の走行性・安全性・諸施設等、本四道路の利用に係る各種事項に対するお客様満足度	5段階 評価	3.7	3.7	大幅な割引により昨年度大きく向上した料金の評価をはじめ、ほとんどの項目で昨年度評価を維持できたことから、目標を達成しました。

※ 死傷事故率は暦日データをもとに算出しています。

平成21事業年度報告書において、H21年の死傷事故率は、会社集計による事故件数から6.4と算出しておりますが、交通事故総合分析センターが集計した事故件数から算出した数値6.6に訂正しています。

2. 各指標の取り組みについて

- 当社で取り組んでいる9項目について、平成22年度の取り組みと成果を報告します。

路上工事による車線規制時間

路上工事に伴う車線規制時間の減少を図り、交通の円滑化及び渋滞の減少を目指します。

アウトカム指標

道路1km当たりの路上工事（陸上部）に伴う年間の交通規制時間

○算出方法

路上工事に伴う車線規制（路肩規制、移動規制、事故処理のための規制を除く）の時間の年間累計を路線延長で除して算出する。

○算出式

$(\text{路上工事による年間車線規制時間}) / (\text{路線延長})$

○目標値と実績値

	(時間/km・年)	
	平成21年度	平成22年度
目標値	65	85
実績値	106	94

取り組みと成果

道路構造物の経年劣化に伴う補修工事等が年々増加する傾向にあり、車線規制が必要な工事も増加するなか、複数工事での規制の集約や施工法の工夫等により規制時間の削減に努めました。

しかし、平成22年度は、この数年の間に新たに6.6kmの路線延長が舗設後10年以上を経過したことに加え交通量の増大により舗装が急速に劣化したため、補修工事を大規模に実施したことから、目標を上回る結果となりました。



片側交互規制状況(舗装補修時)
(一般国道317号 大島大橋)



車線規制状況(舗装補修時)
(一般国道28号 垂水JCT Eランプ)

《参考》平成23年度の取り組み(目標値85 時間/km・年)

平成23年度は、複数工事での規制の集約、西瀬戸自動車道における全線1日1箇所規制等の取り組みを引き続き実施し、規制回数の削減に努めるとともに、突発的対応事象についても作業の効率化により規制時間の低減に努めます。

道路構造物保全率（舗装）

路面補修を確実にを行い道路利用者が快適に感じる舗装の状態が保持されている道路延長の増加を目指します。

アウトカム指標

道路利用者が快適に感じる舗装の状態が保持されている道路延長の割合

○算出方法

路面のわだちやひび割れによる振動や騒音が少なく、道路利用者が快適に感じる舗装の状態（MCI>4）の道路延長を管理延長で除して算出する。

※ MCIとは、舗装の供用性を示す評価指数であり、舗装の性状をわだち掘れ、ひび割れ、平坦性を評価項目として10点満点で数値化したもので、4 以下の場合であっても直ちに安全性に影響するものではありません。

○算出式

$(MCI > 4 \text{ の道路延長}) / (\text{管理延長}) \times 100$

○目標値と実績値

(%)

	平成21年度	平成22年度
目標値	98	97
実績値	94	96

取り組みと成果

舗装のひび割れ等による損傷は年々増加してきていますが、3年毎に実施する路面性状測定車による路面性状調査及び日常点検の結果を基に舗装性状を予測・補修計画を立案し、適切な補修を実施しています。

しかし、この数年の間に新たに66kmの路線延長が舗設後10年以上を経過したことに加え交通量の増大により舗装が急速に劣化し要補修延長が急増したことから、平成21年度の2倍を超える規模の補修を実施し、保全率を2%改善させましたが、目標には若干達しませんでした。



舗装補修工事状況
(一般国道317号 大島大橋)



舗装補修工事状況
(一般国道28号 淡路島南IC～鳴門北IC)

《参考》平成23年度の取り組み（目標値90*%）

舗装の急速な劣化等により、損傷範囲が更に広がることが予想されるため、平成22年度に引き続き平成23年度も舗装補修工事に集中的に取り組み、道路走行に快適な路面の維持に努めます。

※わだち<25mm、ひび割れ<20%、かつ、神戸淡路鳴門自動車道・瀬戸中央自動車道においてはMCI>5、西瀬戸自動車道においてはMCI>4を「道路利用者が快適に感じる舗装の状態」と定義して設定
(平成22年度実績値96%は本定義を適用した場合90%となります。)

道路構造物保全率（橋梁）

予防保全を確実にいき橋梁としての機能を維持することを目指します。

アウトカム指標

予防保全が行われている橋梁の延長の割合

○算出方法

今後5年間程度は通行規制や重量制限の必要がない段階にあり、かつ予防保全が行われている橋梁の延長を全橋梁延長で除して算出する。

○算出式

（今後5年間程度は通行制限や重量制限の必要のない段階にあり、かつ予防保全が行われている橋梁の延長）／（全橋梁延長）×100

○目標値と実績値

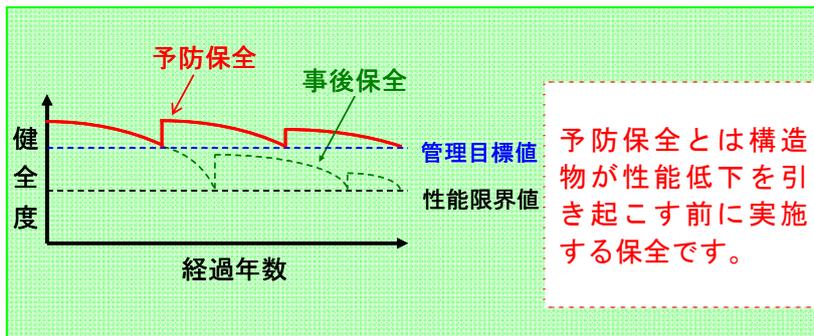
(%)

	平成21年度	平成22年度
目標値	100	100
実績値	100	100

取り組みと成果

橋梁の状態を的確に把握するため橋梁点検を計画的に実施するとともに、点検結果から劣化予測を行い、これに基づき適切に予防保全を実施しています。

これにより、全ての橋梁の健全性を維持しています。



橋梁点検車を用いた橋梁点検状況
(一般国道317号 第二彦ノ上高架橋)



壁高欄はく落防止対策(予防保全)
(一般国道30号 与島高架橋)



塗替塗装(予防保全)
(一般国道28号 西神高架橋)

《参考》平成23年度の取り組み（目標値83[※]%）

計画的な橋梁点検により、橋梁の状態を的確に把握し、必要な補修を計画的に実施し、橋梁を良好な状態に保つよう努めます。

※「今後5年間程度は補修を必要としない陸上部橋梁数の割合」と定義して設定
(平成22年度実績値100%は本定義を適用した場合82%となります。)

長大橋健全度（塗装）

予防保全を確実にいき、維持管理費のコストを抑制して長期間にわたる経済性を確保しながら、海峡部長大橋の健全度を維持することを目指します。

アウトカム指標

全面塗替塗装完了直後の塗装状態の評価値を100とした場合に、現在の塗装状態の評価値（残存価値）の評価値100に対する割合

全層（下地の無機ジクリッチペイント～上塗りフッ素樹脂塗料）の塗替塗装を行う場合の費用を100とした現在の塗装状態の残存価値を示す割合です。

この指標は長大橋17橋と取付高架橋等の全面積400万㎡を対象とした平均値で表しています。長大橋の塗替塗装は、塗膜の損耗状況を観察し、下塗りの塗膜が露出する前に塗替えを完了する予防保全に基づいて実施しています。

○算出方法

現在の塗装状態の評価値を全面塗替直後の評価値で除して算出する。

○算出式

$(\text{現在の塗装状態の評価値} / \text{全面塗替直後の評価値}) \times 100$

○目標値と実績値

	(%)	
	平成21年度	平成22年度
目標値	85	85
実績値	85	85

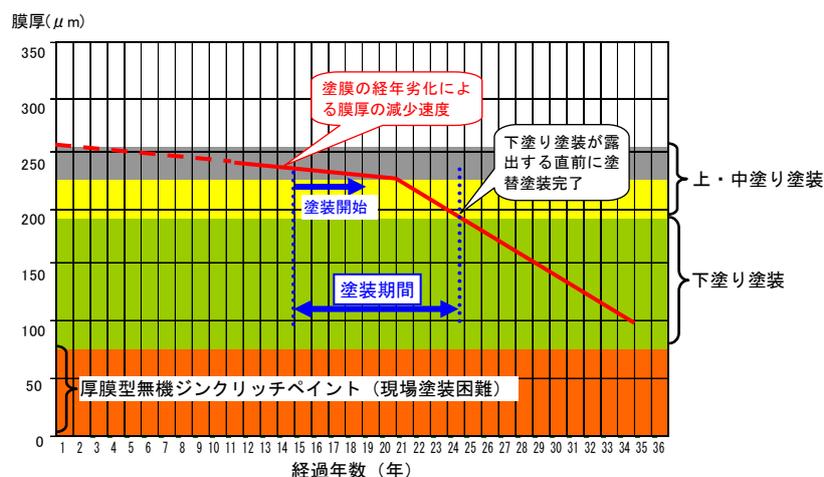
* 塗膜の自然劣化により割合は毎年低下するが、ミニマムコストの補修により85%まで向上させることを目標としています。

取り組みと成果

海峡部長大橋は、自然環境及び施工環境が厳しいことから、長期防錆型塗装を採用してライフサイクルコスト※の低減を図っています。

この長期防錆型塗装は、塗膜の劣化が下塗り層に到達する前に上・中塗り層を塗替えて下塗り層を保護することにより長寿命化が図れ、かつ塗替えコストを低く抑えることができることから、下塗り塗膜が露出する時点を予測し、塗替え時期を決定しています。

平成22年度は、門崎高架橋、瀬戸大橋の塗替塗装を実施しました。



補剛桁の塗替塗装状況
(一般国道30号 瀬戸大橋)

《参考》平成23年度の取り組み（目標値85%）

今後も、塗膜の劣化予測に基づき適切な時期に塗替を実施し、ライフサイクルコスト※の最小化を図りつつ海峡部橋梁の健全性の維持に努めます。

※ライフサイクルコストとは、一般的に建設費用、建設後更新までの期間に必要な維持管理費用及び更新費用（撤去費用）を足し合わせたコストを言います。

道路交通における死傷事故率

交通事故を減らすことにより、道路の交通安全の向上を目指します。

アウトカム指標

1万台の車両が1万km走行した場合に起こる死傷事故の件数

○算出式

年間死傷事故件数／自動車走行台キロメートル

○データ

年間死傷事故件数…(財)交通事故総合分析センター統計資料

自動車走行台キロメートル…本四高速(株)営業実績

○目標値と実績値

(件／億台・キロ)

	平成21年	平成22年
目標値	8.8 (下回るよう努力)	8.8 (下回るよう努力)
実績値	6.6	6.9

取り組みと成果

死傷事故率を減らすことは、すなわち交通事故を減らすことです。

JB本四高速では、交通事故を未然に防止し、また、発生した交通事故に迅速かつ的確に対処することにより、交通事故の二次的な発生要因を除去し、お客様に安全で安心できる道路走行を提供するため、日頃から様々な取り組みを行っています。

○管制業務

管制室は、365日、24時間体制で、道路パトロールカー、非常電話、ITVカメラ、気象観測装置等から収集した道路状況、走行環境等の各種情報を把握するとともに、道路情報板等によりお客様に迅速かつ的確な情報提供に努めています。



【管制室】

(神戸管理センター管制室)



【道路情報板】

(一般国道28号 垂水IC～淡路IC)

○道路巡回業務

道路パトロールカーは、道路や施設の状況等を正確に把握するために常に管制室と連携をとりながら24時間体制で道路巡回を行い、路上落下物回収や事故処理等、現場での迅速な対応で道路の安全を守っています。



【事故現場】

(一般国道317号 向島IC～因島北IC)



【事故発生時等での通行規制】

(一般国道28号 淡路島南IC～鳴門北IC)

なかでも、路上落下物は、走行の支障となるだけでなく、時として大事故につながるおそれがありますので、事故の未然防止の観点から、巡回中は細心の注意を払っています。



【路上落下物回収中の交通管理隊員】
(一般国道 30 号 水島 I C ~ 児島 I C)



【本四道路での路上落下物は年間約 6 千個】
(鳴門管理センター落下物収集所)

○広報活動

主に交通安全週間期間中に、サービスエリアやパーキングエリア等にポスターを掲示し、併せて、道路を走行中のお客様に対して道路情報板を用いて交通安全を呼びかけています。

○道路緊急ダイヤルによる情報収集

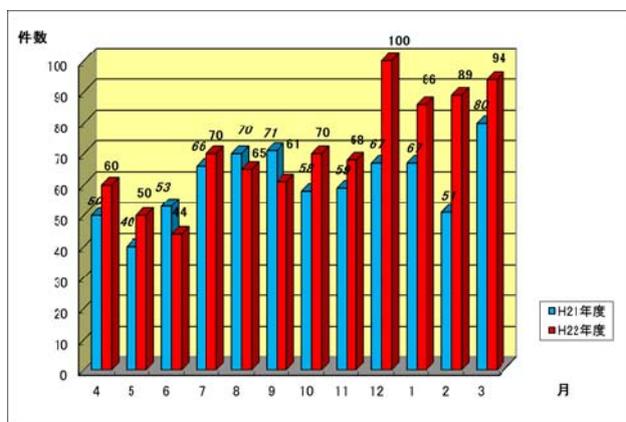
お客様が走行中に路上落下物や道路の異状等を発見した場合、道路緊急ダイヤル【#9910】等で通報をいただくよう、当社ホームページやポスター、チラシ等でご協力をお願いしています。



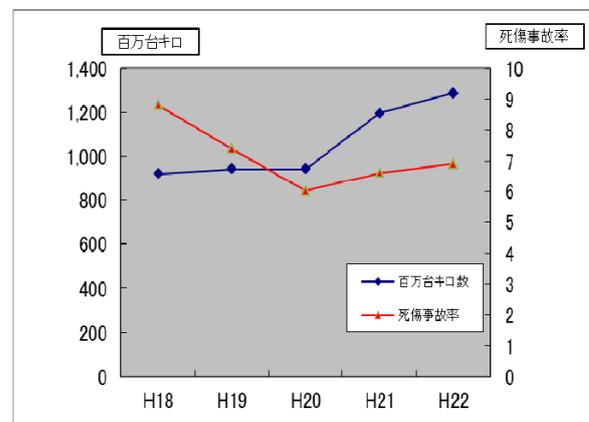
【道路緊急ダイヤルの広報内容】

平成 22 年の死傷事故率は、目標を達成したものの、平成 21 年より 0.3 ポイント増加し 6.9 となりました。

これは、交通安全対策に寄与する高機能舗装を推進したこと、交通安全や道路緊急ダイヤルの広報活動により、お客様からの道路緊急ダイヤル【#9910】等による通報が増加し、道路情報の情報板への掲出や交通管理隊の出動等を迅速かつ的確に行うことが可能となったことから、死傷事故率は年々低下傾向にありましたが、平成 21 年に高速道路利便増進事業による大幅な割引が導入され、昨年に引き続き交通量及び事故件数が増加し、走行台キロの増加率を事故件数の増加率が上回ったことによりです。



【道路緊急ダイヤル通報実績 (月別)】



【台キロ、死傷事故率過去 5 年間の推移】

《参考》平成 23 年度の取り組み (目標値 6.9 件/億台・キロ)

お客様に安全で安心できる道路走行を提供するため、今後もこれらの取り組みを行ってまいります。

本線渋滞による損失時間

渋滞を減らし安全で快適に利用できる高速道路を目指します。

アウトカム指標

渋滞が発生することによるお客様の損失時間

○算出方法

交通流測定器（トラフィックカウンター）が設置されている各IC間を、法定速度で通過した場合の時間と、実走行の平均走行速度（旅行速度）で通過した時間との差を毎正時ごとに累計して年間損失を算出する。

○算出式

$$[(\text{区間距離} / \text{旅行速度}) - (\text{区間距離} / \text{法定速度})] \times \text{区間交通量}$$
 の年間累計
ただし、法定速度より旅行速度が大きい場合は、法定速度とする。

○目標値と実績値

(万台・時/年)

	平成21年度	平成22年度
目標値	7.8 (下回るよう努力)	4.8 (下回るよう努力)
実績値	8.5	4.5

※ 一般国道28号において渋滞が確認されている、垂水IC～淡路IC間及び鳴門北IC～鳴門IC間を対象としている。

取り組みと成果

本四道路の渋滞発生は、年3回の繁忙期であるゴールデンウィーク、お盆、年末年始に集中することから、各繁忙期間に先立ち、渋滞発生が予想される日・時間帯等をお客様にお知らせし、渋滞を避けた旅行を計画して頂くよう取り組みました。また、繁忙期間には、突発的な緊急工事を除いて路上工事を行わないこととし、工事による渋滞を発生させないようにしました。

平成22年度も引き続き、高速道路利便増進事業による大幅な割引の導入により、GW、お盆、年始に渋滞が発生しました。しかし、平成21年度のような大きな渋滞は発生せず、本線渋滞損失時間は大幅に減少しました。

渋滞箇所については、昨年度に引き続き、速度低下に対し注意を促すための標識や、トンネル照明の照度アップによる圧迫感の緩和等により、渋滞損失時間の低減に努めました。さらに、ETCレーンの増設により、ETCトラブルによる渋滞発生を防ぐ対策をとりました。また、ETCレーン移設による利用率の向上で、渋滞発生を防ぐ対策をとりました。SA・PAには、渋滞予測及びサグ渋滞注意のポスターを掲示しました。

○平成22年度の渋滞発生予測の記者発表ならびにホームページ掲載の実績

	発表時期	記者発表内容
ゴールデンウィーク	4月6日	・渋滞予測 ・渋滞対策の予定
お盆	7月16日	・予測ピーク橋上交通量 ・道路交通情報のお問合せ
年末年始	12月 3日	・サービス施設の営業時間 ・橋梁ライトアップ情報

○渋滞状況



渋滞状況
(一般国道 28 号 舞子トンネル上り)



渋滞状況
(一般国道 28 号 津名一宮 IC 上り)

○ETCレーン増設



ETCレーン増設状況
(一般国道 317 号 向島IC)

○ETCレーン移設



ETCレーン移設状況
(一般国道 30 号 早島IC)

《参考》平成23年度の取り組み（目標値4.5万台・時／年）

平成23年度も引き続き、高速道路利便増進事業による大幅な割引が継続され、GWには渋滞が発生しました。今後の繁忙期間にも渋滞の発生が予想されますので、引き続き、各繁忙期間に先立ち、渋滞発生が予想される日・時間帯等をお客様にお知らせし、渋滞を避けた旅行を計画して頂くよう取り組むとともに、SA・PAに渋滞予測及びサグ渋滞注意のポスターを掲示します。

また、繁忙期間には、突発的な緊急工事を除いて路上工事を行わないこととし、工事による渋滞を発生させないように努めます。

さらに、新たに渋滞が発生した箇所については、速度低下に対し注意を促すための標識の設置を行い、渋滞損失時間の低減に努めます。

ETC利用率

ETC利用率を向上させることにより料金所渋滞の解消、お客様の利便性の向上を目指します。

アウトカム指標

ETC利用可能料金所におけるETC利用車両の占める割合

○算出式

$$\frac{\text{ETC利用台数}}{\text{ETC利用可能料金所における総通行台数}} \times 100$$

○目標値と実績値 (％)

	平成21年度	平成22年度
目標値	80	89
実績値	89	90

取り組みと成果

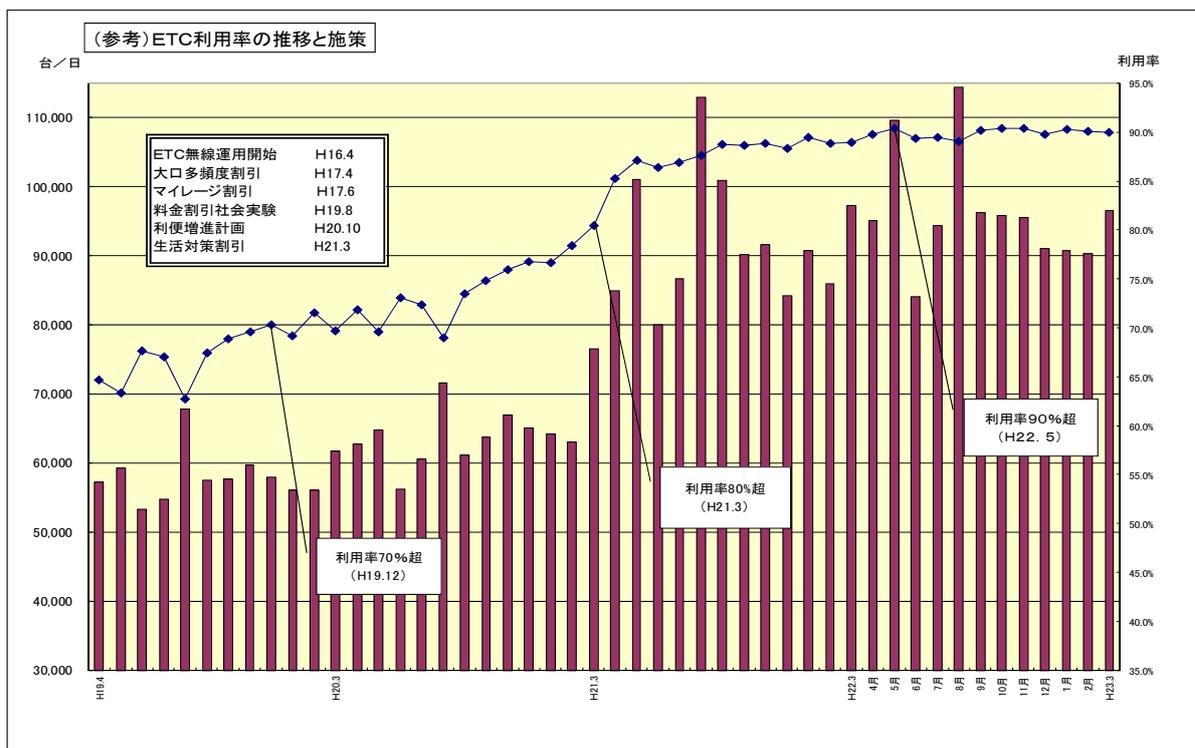
ETC利用率向上のため、普及に係る施策に取り組み、平成16年4月のETC無線運用開始以来着実な伸びを示してきたところです。平成22年度は高速道路利便増進事業として実施したETC割引施策の効果もあって、前年度末から約1%の増加となり、目標を上回りました。

○平成22年度の取り組み

- ①利便増進事業のETC割引施策によるETC利用交通量の検証結果をもとに、ETCレーンの増設を行いました。
- ②ETC限定の企画割引として、淡路花博2010 ETC平日昼間割引（平成22年3月23日～5月28日）及び与島PA Uターン割引（平成22年4月～平成23年3月）を実施しました。

《参考》平成23年度の取り組み

より快適にETCをご利用いただけるようレーン整備を図り、引き続き通行方法や割引内容の広報に努めます。



総合顧客満足度

お客様に道路を安全、安心、快適にご利用いただけるサービスを目指します

アウトカム指標

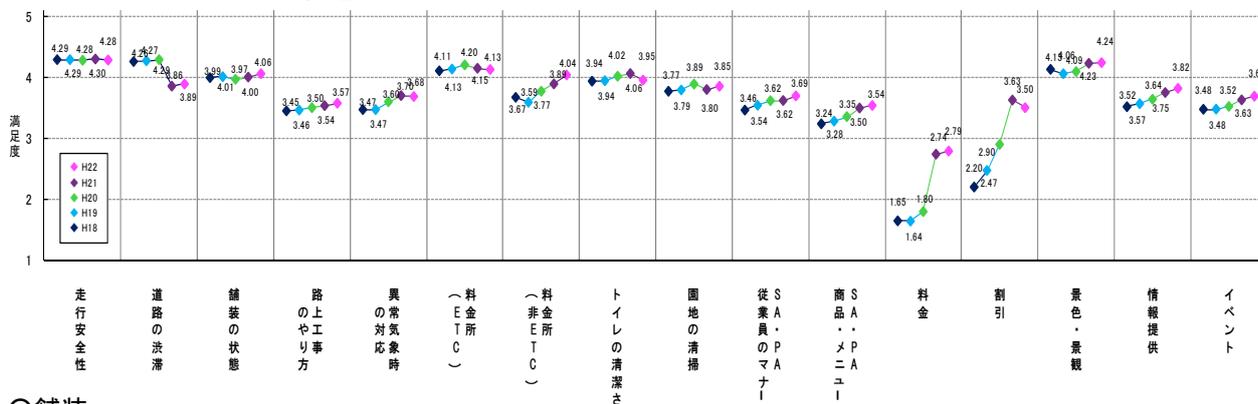
道路の走行性・安全性、諸施設の快適性等、本四道路の利用に係る各種事項に対するお客様の満足度（5段階評価）

	平成21年度	平成22年度
目標値	3.4	3.4
実績値	3.7	3.7

取り組みと成果

オンライン調査の結果

平成22年11月から約4ヶ月間、本四道路に対するお客様の満足度を把握する調査を実施し、1,528名の方より回答をいただきました。ほとんどの項目について、平成21年度と変わらない評価をいただき、これらの総合評価点は目標を達成いたしました。



舗装

平成22年度は例年規模を上回る舗装補修を実施し、評価が向上しました。(H21より+0.06ポイント)

OSA・PAでの取り組み

季節に対応して食事等のメニューの入替・導入を行うほか、各テナントでの接客研修を継続して行ったことなどから、従業員のマナーに対する評価が向上しました。

(H21より+0.07ポイント)

イベント

お客様感謝デーや塔頂体験ツアー等の継続に加え、平成22年度は新たに「恋人の聖地」モニュメントを淡路SA上り線に設置し、これに連動したクリスマスコンサートを実施するなどにより、イベントに対する評価が向上しました。

(H21より+0.06ポイント)

情報提供

観光ホームページや携帯サイト「JB ねんぱい」の観光モデルコース等を随時更新したことや、twitterの活用をはじめたことなどにより、情報提供に対する評価が向上しました。(H21より+0.07ポイント)

料金

平成21年度から実施した高速道路利便増進事業による大幅な割引や、淡路花博2010・与島PA Uターン割引・しまなみサイクリングクーポン等の取り組みを行い、昨年度に引き続き好評価をいただきました。

(H21より+0.05ポイント)

《参考》平成23年度の取り組み(目標値3.7※)

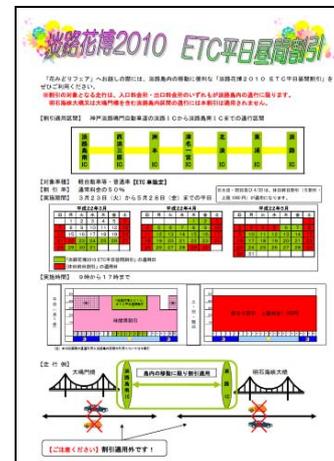
引き続き万全の維持管理に努めるとともに、お客様の視点に立って安全、安心、快適にご利用いただけるサービスを検討し、お客様の満足度の向上を図ってまいります。

※「道路の走行性・安全性、諸施設の快適性等、本四道路の利用に係るお客様の総合的な満足度の評価(5段階評価)」と定義して設定

(平成22年度実績値3.7は本定義を適用した場合も3.7となります。)



「恋人の聖地」オープニングセレモニー (淡路SA)



料金割引のチラシ (淡路花博2010)

第4章 計画管理費の計画と実績の対比

1. 維持修繕費

1-1 計画と実績の対比

(消費税抜・百万円)

業 務 名		H22 年度 計画額	H22 年度 実績額	《参考》 H21 年度 実績額
清掃作業			338	338
植栽作業			198	198
雪氷対策作業			43	24
保全点検	施設設備定期点検		551	551
	土木日常点検(長大橋)		163	163
	土木日常点検(その他)		141	141
光熱水費			518	511
事故等復旧作業			41	163
調査等経費			118	89
土木構造物等 の補修取替	のり面排水溝		46	61
	舗装		2,027	589
	長大橋構造物の補修取替		393	566
	土木構造物の補修取替		313	234
	交通管理施設		21	48
	電気通信施設補修取替		196	186
	機械設備補修取替		266	227
	建築施設補修取替		23	11
計		3,864	5,397	4,099

〈主な増減理由〉

舗装補修の増

1-2 当該年度の維持修繕業務の状況

清掃・植栽等の維持作業については必要な時期・箇所を厳選して実施しました。
土木構造物・長大橋構造物・諸設備については、点検結果に基づき適切な補修等の予防保全を実施しました。

1) 維持作業実施状況

(1) 清掃作業

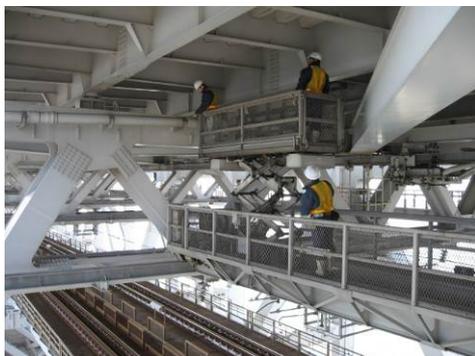
安全・円滑な高速道路の通行を確保するため、路面、休憩施設、道路構造物、道路付属物等のゴミ、塵埃、土砂、汚れ等の除去を人力や機械を用いて実施しました。

(2) 植栽作業

路側・中央分離帯・園地等に植栽した樹木、樹林、芝生、草花等について、その保護や育成を図るとともに、成長によって生じる走行上や周辺環境上支障となる部分等を除去するため、必要最低限の剪定、伐採、施肥、薬剤散布、刈り込み、除草等を人力や機械を使用し適宜実施しました。

(3) 保全点検

道路機能の健全な維持に向け、道路構造物及び道路付属物の変状、機能の損失、もしくはそれらの前兆を的確に把握するため、一般土木構造物、長大橋、機械設備及び電気設備の点検を実施しました。



長大橋(トラス桁内面)点検状況
(一般国道 30 号 瀬戸大橋)



トンネル覆工版打音点検状況
(一般国道 30 号 正面山トンネル)



点検補修用作業車の点検状況
(一般国道 317 号 因島大橋)



橋梁照明の点検状況
(一般国道 317 号 来島海峡大橋)

2) 当該年度の主な道路資産保全の状況(修繕業務実施状況)

道路機能の健全度を維持するため、点検により発見された道路構造物及び道路付属物の変状、機能の損失、もしくはそれらの前兆について、進行を抑止もしくは機能を原状回復させる補修を実施しました。

(1) 舗装修繕

舗装の打ち換え等を実施するにあたり、日常点検やわだち掘れ量、ひびわれ率等を測定する定期調査により路面の性状を把握し、下表に示す補修基準値を目安に必要な応じた補修を計画的に実施しました。

路面性状の補修基準値

わだち掘れ	平坦性σ	段差	ひびわれ率
25mm	3.5 mm	20/30mm※	20%

※ 橋梁の取付部/横断構造物の取付部

MCIの補修基準値

	一般国道28号(神戸淡路鳴門自動車道)、 一般国道30号(瀬戸中央自動車道)	一般国道317号 (西瀬戸自動車道)
MCI※	5未満	4未満

※ MCIとは、舗装の供用性を示す評価指数であり、舗装の性状をわだち掘れ、ひび割れ、平坦性を評価項目として10点満点で数値化したものです。



舗装補修状況
(一般国道317号 伯方島IC~大島北IC間)



ひびわれ補修状況
(一般国道30号 水島IC~児島IC)



ポットホール補修状況
(一般国道28号 北淡IC~津名一宮IC間)



路面標示補修状況
(一般国道317号 多々羅大橋)

(2) 一般橋梁等の補修

道路の機能や走行安全性の確保及び第三者に対する高架下の安全確保のため、点検結果に基づき変状に応じた補修を実施しました。

損傷・変状が機能面からみて概ね5年以内に補修が必要である場合や走行安全性または第三者に対し支障が生じる恐れがある場合は、必要かつ適切な補修、取替えを行うことにより、道路機能の維持に努めました。



断面修復状況
(一般国道 28 号 一谷川橋)



カルバートボックスひびわれ補修状況
(一般国道 317 号 伯方島IC付近)

(3) 長大橋の補修

長大橋構造の機能の確保、走行安定性の確保、船舶航行の安全確保等のため、点検結果に基づき、変状が顕在化する前または変状の初期段階において必要かつ適切な補修を実施しました。



大型伸縮装置の補修塗装状況
(一般国道 30 号 下津井瀬戸大橋)

(4) コンクリート構造物の塩害対策

海峡部長大橋の長期に渡る管理においては、厳しい自然環境下において構造物の耐久性を確保する必要があるため、計画的かつ効率的な予防保全を確実にを行い、維持管理費の増大を抑制することが重要になります。

膨大な表面積を有する吊橋等のコンクリート構造物への塩害対策として、点検・非破壊検査による定量的データの蓄積、劣化予測、評価・判定を行い最適な時期に塗装による表面被覆を行うことにより、構造物の長期耐久性向上を図っています。



吊橋アンカレージの防食塗装状況
(一般国道 30 号 南備讃瀬戸大橋)

(5) 諸設備の障害対応

諸設備については、適正で良好な管理を行うとともに、障害が発生した場合は速やかに緊急修理等を行い機能確保に努めました。

	故障対応件数	
	機械設備系	電気・通信設備系
平成 22 年度の実績	483 件 (故障対応率 100%)	1,609 件 (故障対応率 100%)

2. 管理業務費

2-1 計画と実績の対比

(消費税抜・百万円)

業務名	H22年度 計画額	H22年度 実績額	《参考》 H21年度 実績額
料金收受委託等		2,200	2,258
交通管理委託等		665	665
クレジットカード手数料		627	600
その他		511	480
計	4,255	4,002	4,003

〈主な増減理由〉 クレジットカード手数料の減

2-2 当該年度の管理業務の状況

1) 料金收受業務

本四道路の有人レーンでの料金收受にあたっては、サービスタイムをもとに1レーンあたりの処理可能台数を定め、交通量実績を処理可能台数で除した値を開放車線数として算定のうえ、必要人員を配置し、適正な数の車線の開放に努めるとともに、ETCトラブル時におけるお客様誘導等の安全確保等、迅速かつ適切な対応に努めました。

また、ETCレーンの増設や安全通路の設置にも取り組みました。

延べ開放車線数(有人レーン)

料金所形態	料金所名	サービスタイム	処理可能台数 (処理台数/時間)	開放車線数 (標準)	最大交通量	開放車線数 (実績)
一体徴収料金所	鳴門	19秒	150台	2	196台	2

※本四道路の一般的な料金所形態である一体徴収料金所のうち、代表的な料金所における任意日(平成22年6月9日)の最大交通量である時間帯における開放車線数

○最大交通量(196台)

○時間帯(11時)



料金收受業務
(一般国道30号 早島料金所)

2) 不正通行対策

公平公正な課金を行うため、E T Cレーンでの強行突破等による不正通行車をカメラで捕捉し、通行料金の回収等の強化を図るため、従前より整備を進めている不正通行監視カメラの増設を行いました。

引き続き、警察と連携した取締りを継続実施するとともに、カメラで捕捉した不正通行への請求強化を図り、悪質な不正通行者に対しては、警察への通報、告発を検討してまいります。

3) 交通管理業務

管制室において交通管理隊への指示及びお客様への道路交通情報の提供等を行うとともに、交通管理隊が定期巡回、臨時巡回、緊急出動等を行い、諸事象に対処しました。

巡回回数実績

管理延長 (k m)	交通量/ 日平均(台)	22年度 巡回回数(標準)	22年度 巡回回数(実績)	22年度 処理件数
172.9	51,072	7	7	12,443

※ 交通量 … 本四3ルート合計(県境断面)

※ 処理件数… 路上落下物、道路損傷・汚損、交通事故処理、故障車対応等の対処件数/年度

※ 巡回回数… 定期巡回回数/日



交通管制業務
(岡山管理センター管制室)



道路巡回業務
(一般国道28号 垂水IC~淡路IC)

第5章 平成23年度以降の道路管理について

1. 予防保全による維持管理費

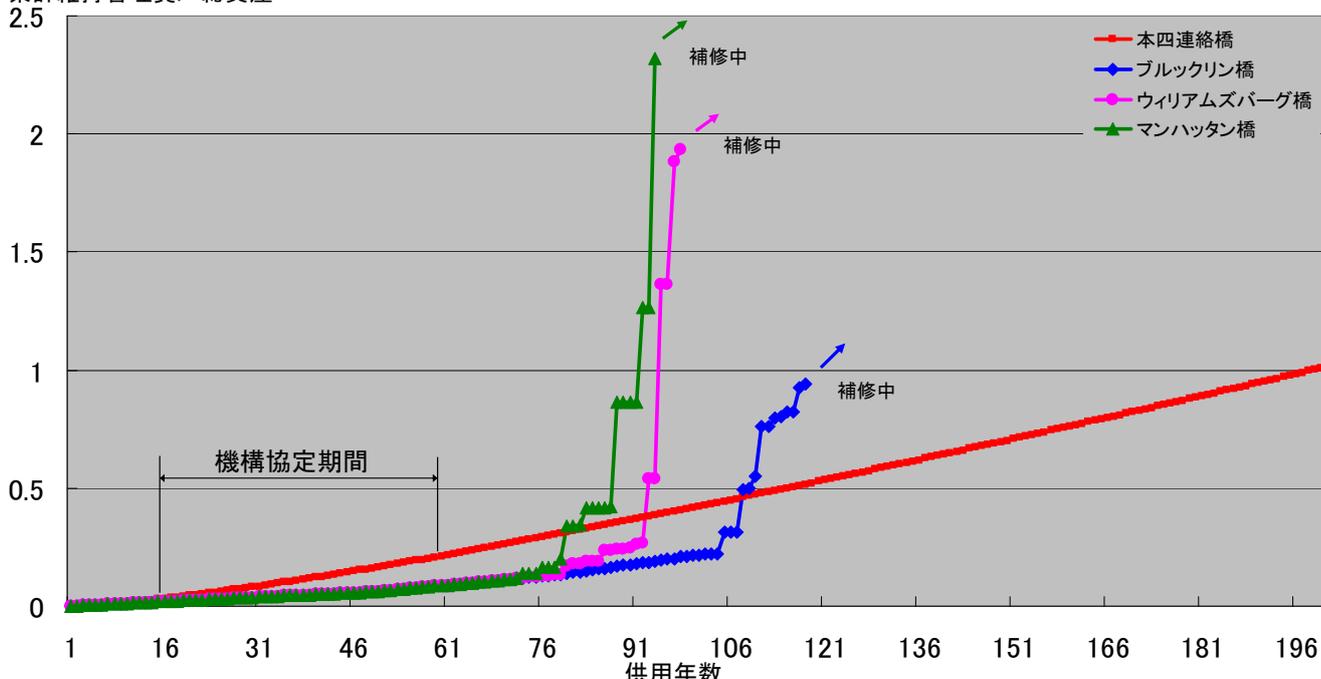
当社では、予防保全に基づいた海峡部長大橋の維持管理を行っています。

「予防保全」とは構造物が性能低下を引き起こす前に補修を行うもので、従来の劣化が進み耐久性に問題が生じた時点で補修を行う「事後保全」に比べライフサイクルコストの低減が可能な管理手法です。

下図はアメリカの高齢吊橋の総資産に対する累計維持管理費の実績を表したものです。「荒廃するアメリカ」が著された1980年代以降、本格的な補修が始まりましたが、それまでの管理を怠ったツケが回り、新たに吊橋を建設するのに必要な費用の2倍程度の維持管理費が既につき込まれています。

図中に本四連絡橋の計画値も示していますが、予防保全による計画的な管理を行うことにより200年以上の耐用年数を効率的に実現するよう努力しています。

累計維持管理費／総資産



* 総資産は、新設するとした場合の費用。また、使用したデータには仮定値・推定値が含まれています。

アメリカの高齢の吊橋の管理費（実績）と本四連絡橋の管理費（計画）

《参考》

道路資産データ等

①道路構造物延長

路線名	延長 (km)	供用延長			
		土工	橋梁・高架橋	海峡部長大橋	トンネル
一般国道28号 (神戸淡路鳴門自動車道)	89.0	57.3 (64.4%)	18.8 (21.1%)	5.5 (6.2%)	7.4 (8.3%)
一般国道30号 (瀬戸中央自動車道)	37.3	15.0 (40.2%)	13.8 (37.0%)	7.0 (18.8%)	1.5 (4.0%)
一般国道317号 (西瀬戸自動車道)	46.6	25.2 (54.1%)	8.8 (18.9%)	9.7 (20.8%)	2.9 (6.2%)
本州四国連絡道路 計	172.9	97.5 (56.4%)	41.4 (24.0%)	22.2 (12.8%)	11.8 (6.8%)

②交通量、経年数

	交通量(千台/日)	経年数	備考
本州四国連絡道路 計	106	10年～30年	

※交通量・・・全路線の平成22年度の日平均交通量

※経年数・・・供用開始からの年数

③ETC利用率

路線名	ETC利用率(%)
本州四国連絡道路 計	90% (ETC利用台数/ETC利用可能料金所における総通行台数)×100

※平成23年3月の月平均

④異常気象による通行止

異常気象による通行止め回数

路線名	年度	強風	雨	雪	霧	備考
本州四国連絡道路 計	H21年度	3	0	1	0	
	H22年度	2	0	2	0	